

なかや 仲家こうじ

後援会だより

No.16
2017年12月



発行者：仲家こうじ後援会（〒879-2201 住所：大分市大字佐賀関 2232-159 電話：097-575-3606）

大分市議会トピックス

第2回定例議会

平成29年度第2回定例会が6月12日から26日までの15日間の日程で開催され、「平成29年度大分市一般会計補正予算案」、「小学校設置条例一部改正」など25議案が提案され、原案どおり可決しました。

【主な議案】

◇平成29年度大分市一般会計補正予算案…補正額：1億7,300万円

今回の補正予算は、社会体育施設の改修費のほか、防災力の強化に係る経費を中心に編成され可決しました。

<総務費 1億円>

- ・日吉原体育館の耐震化等を図るための工事請負費、私立認可保育所等の施設整備に対する補助金、市営温水プールでの天井材の一部落下事故を踏まえ、天井や屋根及び空調設備の改修に係る工事請負費

<消防費 5,950万円>

- ・「ラグビーワールドカップ2019」などの大規模イベント開催時のテロ行為や最近の国際情勢により、国民保護法で想定される事態などの特殊災害時においても消防活動が行えるよう、防護マスクや化学防護服等の必要な資機材追加購入費
- ・本年3月に大分県が策定した「災害時備蓄物資等に関する基本方針」に基づいて見直した大分市の備蓄目標数の充足に向け、市内の各避難所等に備蓄する段ボールベッド及び毛布の追加購入費のほか、「大分市地域防災計画」における津波避難ビルや津波避難場所などの最新の防災情報を反映した「わが家の防災マニュアル」の改訂並びに全戸配布に係る業務委託料

<土木費 1,350万円>

- ・大分駅付近の鉄道高架事業により生じた鉄道残存敷が正式に大分県から無償譲渡されることとなり、その活用に向けた設計等委託料の追加

◇大分市子どもルーム条例の一部改正について

- ・現在休止中の「府内子どもルーム」を旧中島小学校の校舎の一部を改修し、移転する計画

◇大分市子ども医療費の助成に関する条例の一部改正について

- ・小中学生の入院に係る医療費の一部自己負担金制度を廃止し、子育て世帯の経済的負担の軽減を図る計画

◇大分市立小学校設置条例の一部改正について

- ・地域における協議の結果を踏まえ、平成30年4月1日に野津原東部小学校、野津原中部小学校及び野津原西部小学校の3校を統合し、野津原小学校を設置する計画

第1回臨時議会

平成29年度第1回臨時会が8月4日から10日までの7日間の日程で開催され、冒頭、佐藤市長より7月5日から6日にかけて発生した九州北部豪雨について被害に遭われた方々へのお見舞いの言葉とともに、被災地支援のために消防局をはじめとする大分市職員を日田市へ派遣し、救助活動や避難所生活者の健康管理と相談、住宅被害認定調査等の支援を実施した旨の報告がありました。また、今回の臨時会では報道にもあったように、JR大分駅前の大分パルコ跡地の取得に向けた一般会計補正予算案が提案され、委員会答申を踏まえ条件付きで可決しました。

【主な議案】

◇大分市一般会計補正予算案…補正額：30億円(平成29年度～31年度までの3ヶ年)

- ・大分市では、当該土地を取得し、中心市街地のより一層の活性化を図るための回遊性や滞留性の確保、多くの人が集える祝祭の演出、さらには魅力ある美しい都市景観の形成に寄与することを目的に「祝祭広場」として活用することが望ましいと判断。競争入札に参加するための用地購入費、広場整備に向けた設計費や施設整備費等の経費を「大分市中心市街地祝祭広場整備事業」として計上。審議の結果、「整備については中長期の視点であらゆる手法を検討すること」などの条件付きで可決されました。

◇ごみ収集車の更新

- ・大型ごみや災害ごみなど、多様なごみに対応する収集能力の高いプレス車に更新

◇消防力の強化

- ・はしご付消防自動車、高所作業車、救助工作車、高規格救急自動車及び小型動力ポンプ積載車の更新

第3回定例議会

平成29年度第3回定例会が9月1日から27日までの27日間の日程で開催され、補正予算議案（「企業立地の促進に係る助成金」、「地域農業振興に係る経費」、「災害対策事業に係る経費」）とともに大分市同報系防災行政無線（Jアラート）整備工事や日吉原体育館改修工事の請負契約締結など16議案が提案され、賛成多数で可決しました。

【主な議案】

◇平成29年度大分市一般会計補正予算案…補正額:11億700万円(総額1,798億2,000万円)

＜企業立地推進事業 5億8,317万円＞

- ・大分市へ進出する企業や設備投資を行なう14社に対する助成金

＜総務費 2億1,932万円＞

- ・マイナンバー制度の住民記録システム変更に係る業務委託料
- ・法人市民税等における過誤納金還付金

＜園芸振興事業 1億9,823万円＞

- ・新たな担い手経営開始等支援事業（松岡地区でのベビーリーフ栽培事業）
- ・園芸振興総合対策事業（大葉・ミツバ等の栽培施設設備補助金）

＜教育費 2,900万円＞

- ・経済的理由により就学困難と認められる児童の保護者に対する就学費用の援助（来年度の小学校入学前準備に係る援助費の追加計上）

＜災害対策事業及び災害復旧事業 8,808万円＞

- ・本庁舎耐震性能増強事業
- ・福祉避難所用備蓄物資整備事業
- ・九州北部豪雨に伴う農林水産施設災害復旧事業

＜その他 7,320万円＞

- ・動物愛護拠点施設建設事業（県工事負担金）
- ・大分城跡公園整備・活用事業（大分城跡公園イルミネーション設置事業）



大分城跡公園のライトアップ

建設常任委員会 行政視察報告

(2017年5月)

5月8日から10日までの日程で、建設常任委員会の行政視察が実施され、仲家市議も建設常任委員の立場で視察に参加しました。今回は、北海道函館市、宮城県仙台市を視察しましたので報告します。



函館市議会議場にて
(左から2人目が仲家市議)

＜函館市＞都市景観形成によるまちづくりについて

函館市は三方を海に囲まれた地形で風が非常に強く、しばしば大火に見舞われていた歴史があります。現在の町並みは、昭和9年の大火後の復興事業の際に防火構造建築を取り入れたり、建物の延焼を防ぐために広い幅員の道路を建設するなどの街区形態が整備されたものです。このように、歴史的・文化的な建築物等が街路と函館山、海などの自然と融合する函館市特有の景観を形成しています。現在では、歴史的に貴重な建造物が多く残る地域を行政が都市景観形成地域に指定し景観保全に努めています。歴史的建物を新築、購入、改修する場合にそれらが

函館らしい景観に配慮していると認められたときの奨励金制度や指定建築物の外観修理費用の一部補助制度は、大分市が今後、特色を活かすために行政として出来ることについて大変参考になりました。

函館市の現在の町並み→



＜仙台市＞下水熱利用・公共交通の利用促進の取り組みについて

仙台市は東日本大震災により下水道管も大きな被害を受けました。現在、未来志向型を取り入れた復旧を行っており、今回は「管渠熱利用システム」の実証事業について視察しました。「管渠熱利用システム」とは、下水道管の内側に熱交換パイプをらせん状に設置し熱回収機能を持たせ、熱回収管を通して取り出した熱をヒートポンプを介して給湯として利用するものです。実証試験は大型商業施設で行なわれ、十分に給湯できるだけの能力があるとの結果を得ています。

一方、仙台市は「学都」とも呼ばれ、人口に対する学生の割合が高いことから、運転免許証を持たない学生や高齢者でも暮らしやすい街にするため、公共交通を中心とした自動車になるべく依存しない交通体系の構築を目指しています。具体的には、仙台市転入者へ市内バスマップの配布や市バス営業所、市施設の駐車場等をパーク&ライド・パーク&バスライド（自宅からマイカーで最寄のバス停まで行き、バス停備え付けの駐車場に駐車、そこからバスを利用して都市部等の目的地に向かう乗り換えシステム）の駐車場として活用し、自動車と公共交通の連携を図るなど、公共交通機関を利用しやすい環境を整えつつあります。この仙台市の2つの取組事例は、大分市においても参考になることから、機会を捉えながら検討してまいりたいと考えます。



仙台市議会にて説明を受ける
(右前方から2人目が仲家市議)